

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
701571	
選定番号	148

代表者 校園名： 大阪市立茨田南小学校  
 校園長名： 宇野 多加志  
 電 話： 6911-2001  
 事務職員名： 奥田 明香里  
 申請者 校園名： 大阪市立茨田南小学校  
 職名・名前： 主務教諭 堀尾 優太  
 電 話： 6911-2001

## 令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ		オンライン学習を活用した授業の創造		
3	研究目的		<p>約 2 年にわたるコロナ禍の中、約 2カ月に及ぶ臨時休業・分散登校といういまだかつてない経験をしてきた。そして、現在もなお、大阪では新規感染者が 2000 名近くに及び、第 7 波がいつ来てもおかしくない状況が続いている。予測不可能な事態にあって、いかに児童の学びを保障し、安全・安心な学校づくりを行っていくかは喫緊の課題である。</p> <p>また、本校には、コロナ不安による長期欠席や不登校の児童が少なからずいる。これらの児童の学びを保障し、多様な学びに如何に対応するかも喫緊の課題である。</p> <p>本校では、これまで臨時休業中における学びの保障、長期休業中の児童や不登校児童の学びを保障するために、オンライン授業やハイブリッド型の授業に取り組んできた。また、Teams を活用したライブ中継によるオンライン授業研究会等にも取り組んできた。</p> <p>そこで得た知見をもとに、より効果的なオンライン授業・ハイブリッド型授業を研究・創造し、子どもたちの多様な学びを保障し、安全で安心できる学校づくりを行っていく。</p> <p>オンライン授業・ハイブリッド型授業についての研究は端緒についたばかりであり、教員も試行錯誤しながら行っている面が多々ある。</p> <p>そこで、大学教授や外部講師を招聘した研修会を行ったり、先進的に取り組んでいる学校等を視察したりすることにより、教員の資質向上を図っていく。</p>		

いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5pt イント)

取り組んだ  
研究内容

今年度は、昨年度の成果と課題をもとに、以下のこと取り組んだ。

- ・一人一台端末を活用しての日常的な持ち帰り学習。  
(Teamsやforms、ロイロノート・スクール、navima等を活用しての家庭学習等)
- ・雨天時やコロナ感染拡大防止対策として、全校児童朝会や児童集会等におけるTeamsを活用してのライブ配信。
- ・コロナ感染症予防対策のため自宅待機している児童や学級休業等で自宅待機している児童、何らかの事情により学校に登校できない児童等に対してTeamsを活用してのライブ授業配信、Formsやロイロノート・スクールを活用しての「〇〇クイズ」「学習アンケート」「学習課題」等。
- ・何らかの事情により、学校には登校できるが教室には入れない児童に対し、別室（不登校支援室「ほっとルーム」）において、TeamsやForms・ロイロノート・スクールを活用してのライブ授業配信や学習課題等の提示。
- ・何らかの事情により教員が休みになった際の学年間でのオンライン授業。等

また、これらの研究成果を広く公開するため、和歌山大学教授の豊田充崇先生をお招きし、1月24日にがんばる先生の公開授業・研究討議会を行った。

	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。						
5		日程	令和 5 年 1 月 24 日	参加者数	約 25 名			
		場所	本校 5 年教室・多目的室					
	備考							
6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果 1】</b> オンラインで家庭と学校がつながることにより、子ども・保護者の安心感が高まる。</p> <p>《検証方法》 学校生活アンケート（児童）「あなたは学校が楽しいですか。」の項目について、肯定的回答を 85 %以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「あなたは学校が楽しいですか。」の項目の肯定的回答の割合は 89 %であり、検証指標を上回った。オンラインで家庭と学校がつながることにより、子ども・保護者の安心感が高まり、「学校が楽しい」とする児童が多くなったと考える。</p> <p><b>【見込まれる成果 2】</b> オンライン学習により。子どもの学ぶ力が高まる。</p> <p>《検証方法》 大阪市学力経年調査の標準化得点が前年度より向上する。</p> <p>〔検証結果と考察〕 大阪市学力経年調査の標準化得点の4・5科合計推移は、3年 98.8→98.4 4年 98.6→97.1 5年 101.1→98.7 6年 98.0→101.7であった。6年のみ目標を達成することができたが、との学年はポイントをやや下回った。教科によっては前年度を上回った教科もあり、オンライン学習の成果が表れていると考えられるが、コロナ禍に負けず学びの継続を図ることにより、子どもの学ぶ力をさらに高めていくよう研究していきたい。</p> <p><b>【見込まれる成果 3】</b> オンライン授業をすることにより、教師の ICT 活用力が向上する。。</p> <p>《検証方法》 年度末の「教員のICT活用指導力の状況」調査において、「児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。」という項目について、肯定的回答を 80 %以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 年度末の「教員のICT活用指導力の状況」調査において、「児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。」という項目における肯定的な回答は 80 %以上であった。 これは、本校の研究の取り組みとして、一人一台端末やデジタル教科書、デジタルドリル等 ICT 機器を日常的に活用して取り組んできた成果であると考える。</p>						

6 成果・課題	<b>【見込まれる成果4】</b> オンライン学習の研究に取り組むことを通して、教職員の指導力が向上する。
	<p>《検証方法》 学校生活アンケート（児童）「あなたは、授業がよくわかりますか。」の項目について、肯定的回答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート「あなたは授業がよくわかりますか」の項目について、肯定的回答の割合は91%であり、目標を大きく回った。オンライン学習の研究に取り組むことを通して、教職員の指導力が向上し、「授業がよくわかる」とする児童が多くなったと考える。</p>
	<b>【見込まれる成果5】</b>
<p>《検証方法》</p> <p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 具体的に記載してください。</p> <p>(成果) ・オンラインで家庭と学校がつながることにより、子ども・保護者の安心感を高めることができた。 ・オンライン学習により、子どもの学ぶ意欲が高まった。 ・オンライン学習により、教員の急な休みにも対応できた。 ・オンライン授業に取り組むことにより、教師のICT活用力を高めることができた。 ・オンライン学習の研究に取り組むことを通して、教職員の指導力を高めることができた。 ・オンライン学習を通して、不登校児童とつながりをもつことができ、学習の保障を図るとともに、児童・保護者の安心感を高めることができた。</p> <p>(課題) ・オンライン授業をより効果的に行うため、全学級にデジタルビデオ機器を配置する等の環境整備を図る（現在学年2台体制）。 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るオンライン授業の在り方について研究を深める。</p> <p><b>《代表校園長の総評》</b> オンライン授業に取り組む研究は2年目となった。一昨年度からのコロナ禍においてオンライン学習が必須となり、教員のICT活用能力の向上が不可欠となる中で、全校一丸となってオンライン学習の研究に取り組んできた。何よりオンラインによって家庭と学校がつながり、児童の学びの保障の重要なツールとするために、教職員は研究に取り組んできた。管理職としては、環境の整備に重点を置いて取り組んできたが、何より児童の情報活用能力の向上が見られたことが何よりであった。教員のICT活用能力も向上しているので、今後も研究を続け不測の事態に備えてではなく、日常的にオンラインの学習が行えるような環境づくりに努めていきたい。</p>	